

民主化闘争情報

No. 834
2011年9月27日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

9月18日午前8時頃、北海道小樽市の沖合で、12日から行方不明となっていたJR北海道の中島尚俊社長が遺体で発見された。5月の石勝線脱線炎上事故以降の相次ぐトラブル発生などを苦にした自殺と見られている。

JR北海道社長自殺の背後に36協定問題も？ 組合自らのチェック機能を不問に付し会社を攻める北鉄労！

JR北海道は、9月18日、以下の中島社長の社員宛て遺書を公表した。

毎日、それぞれの持ち場で、安全輸送、接客、収入確保、経費節減に取り組んでいただき有り難うございます。この度の36協定違反では、長期間にわたって協定に違反する事態が発生しており、社員の皆さんに多大なご迷惑をおかけしたことを、お詫びいたします。現在、5月27日の脱線火災事故を反省し、全社をあげて企業風土の改善などに取り組んでいる時に、真っ先に戦線を離脱することをお詫びいたします。当社は、年間に日本の人口とほぼ等しい、1億3000万人の方にご利用いただいています。これだけ多くのお客様の尊い人命をお預かりしているという事実を認識し、「お客様の安全を最優先にする」ということを常に考える社員になっていただきたいと思います。長い間のご支援、ご協力ありがとうございました。

【遺書で触れられている「36協定違反」とは？】

7月8日に札幌中央労働基準監督署が、平成23年4月及び5月のJR北海道本社計画部門における時間外労働についてサンプリング調査したところ、1名が36協定の特別条項で定める労働組合との協議を行わずに、1ヶ月45時間の上限を超える時間外労働をさせており、36協定に違反し、労働基準法違反であるとして7月21日に是正勧告を受けた。その後の社内調査の結果、今年度を含む過去3年間で延べ約450名の違反が発生していた。

非常事態にあるにも関わらず会社を徹底追及する北鉄労！

JR北海道は、5月に発生した石勝線脱線炎上事故以降、社内あげて事故の再発防止に懸命な対応を行ってきた。9月16日には、失踪した中島社長に代わり小池明夫会長が、国土交通省から受けた事業改善命令に対する改善措置報告書を同省に提出した。

このような非常事態ともいえる状況の中、36協定問題をめぐって、会社を徹底的に攻め立ててきたのが北鉄労である。札幌中央労基署による是正勧告以降、北鉄労は機関紙などで以下のように会社の責任を一方的に追及してきた。

「コンプライアンス無視の会社！労基署から是正勧告されるまで組合には一切知らせず！不正な時間外労働が常態化か？」(『Faxひびき』8/19)

「国土交通省からの業務改善命令に続き、今度は労働基準監督署から是正勧告と指導！どうなっているんだ？この会社！」(『Faxひびき』8/24)

「社員にコンプライアンスを求める会社が法律に違反！これが問われている体質か?!結んでも守る気のない36協定なら、締結する必要はない！4月、5月と36協定に違反しているにもかかわらず、組合を無視し続けた会社の姿勢は許されない！協定無視は組合無視の現れ！協定を無視し、社員に不法業務を強いる会社を許すな！」(『Faxひびき』8/29)

事故再発防止にむけ奮闘する社員の心情を逆なでする北鉄労！

北鉄労は会社を徹底糾弾しているが、組合自らの時間外労働に対するチェック機能はどうなっていたのか？そもそも不可解なのは、4月以降の協定違反を見過ごしてきた北鉄労が、なぜ、この時期に会社に対して攻勢の姿勢に転化したかということだ。

想起されるのは、浦和電車区事件一審有罪判決を受けて、2007年7月に東労組が36協定締結を人質に取って、JR東日本に対して牽制・揺さぶりを企図した事象である。まさに、「いつかどこかで見た風景」である。中島社長の心労はいかばかりであったことだろうか？